

事例
研究高齢者の活躍が
企業の未来を切り拓く

少子高齢化に伴う労働力人口の減少は、企業の人材不足を招く大きな問題となっています。本紙では、高齢者の積極的な採用により、問題解決に向けて取り組まれている企業をご紹介します。本事例を足掛かりとして、高齢者を活用した人材確保にお役立てください。

老若男女 誰もが働ける職場を目指す
第一交通産業グループ
興亜第一交通 株式会社平均年齢は61歳
経験豊富なシニアを積極採用

第一交通産業グループは、全国34都道府県で約9,000台の営業車両を保有・展開する業界最大手の旅客運送グループだ。このグループ傘下には175の会社があり、興亜第一交通株式会社（札幌市東区）はそのうちの1社である。同社取締役・ブロック長の宮本憲彦さんにお話を伺った。

「この東区の事業所に所属する従業員は、老若男女あわせて26歳から80歳までの190名。このうち65歳以上のメンバーは83名。平均年齢は61歳で、タクシー業界としてはそれでも少しだけ若い事業所なのかもしれません」と話す。同社の定年は65歳。その後は嘱託として概ね75歳まで働くのがスタンダードになっているのだという。

「シニアのドライバーは、経験豊富なので、お客様とのコミュニケーションの取り方が上手なんです。だからクレームが少ない。とてもありがたい存在です」と宮本さん。だから、60歳以上のシニアでも正社員として採用。63歳くらいまでなら普通自動車二種免許がなくても応募可能と

なっている。二種免許取得の費用はもちろん会社負担だ。

コロナの影響で、長期間、飲食店が営業を制限されたりイベントが中止されたりして、街に人が出なくなった。それでも同社は積極的に人材を採用し続けている。宮本氏は話す。「コロナもいずれは収束します。どのくらい時間がかかるのかは不明ですが、いつかは必ず収束する。そのためのために、いまから人材確保をしておくのが目的です」。

タクシーは公共交通機関のひとつ
きちんと人材を確保するのも使命

緊急事態宣言が解除され、人が街に少しずつ戻ってきているとはいえ、コロナ前と比べると同社の売り上げは、まだ8割程度だという。そういった状況下での人材確保という先行投資。業界最大手ならではの施策といえるだろう。

62歳の時に入社した佐藤敏明さん（73歳）に話を聞いた。「ここにお世話になる前はトラックの運転手をしていました。建材を運んで荷物の上げ下ろしまでしていたので体はきつかった。今はずいぶん楽です」。入社した時は正



写真左) 札幌市東区の興亜第一交通株式会社の外観。
写真中・写真右) 女性ドライバーの採用にも積極的に取り組んでいる。女性が働きやすい環境を提供するために、給料の支払いも固定給や時給などを整えている。

会社概要 第一交通産業グループ

【グループ本社】福岡県北九州市小倉北区
【設立】昭和35年6月
【グループ内社数】175社

【グループ全従業員】約15,000名
【グループ内全営業車両数】9,042台
【連結売上高】1,061億円(平成31年3月期)

興亜第一交通株式会社

【所在地】札幌市東区北24条東10-1-25 【従業員】190名
【電話】011-731-2413
【FAX】011-731-5823

社員、65歳で嘱託職員、70歳でアルバイトになり今にいたっている。「勤務時間は7時から15時、ひと月に15日間働いています。体調をみながらひと月に13日のときもあれば18日のときもあります。勤務日数などほぼ希望通りに調整してもらえるので、体が続く限り働きたいと思っています」と佐藤さん。「お客さんに感謝されるとタクシードライバーをしていてよかったなと思う」と、しみじみ話します。隣で話を聞いていた宮本さんが話す。

「タクシーが『公共交通機関』であるということを変更して認識したのが、2018年の北海道胆振東部地震のときでした。ブラックアウトによる停電でJR、バス、地下鉄などの運行がストップして、この営業所に早朝から50人くらいの方が集まってきた。乗務員にも車両にも限界があったのですが、なんとか工夫して、一人でも多くのお客を目的地までお運びできたとき、この仕事をしていて本当によかったと思いました」。今後もより多くの方々に感謝されることを働き甲斐とするシニアのドライバーが、同社の営業車両のハンドルを握り続けるのだろう。



取締役・ブロック長
宮本憲彦さん

「タクシードライバーはここにいなければならないという仕事ではない。だから休憩時間にスーパーに立ち寄りたり。床屋で散髪したりと自由度が高い職場です」。



佐藤敏明さん(73歳)

「車の運転や、人と話すことが特に苦には感じないなら、この仕事はいい職場だと思いますよ。体が続く限り働きたい」。

社労士からひとこと!



社会保険労務士・
キャリアコンサルタント
産業カウンセラー

小嶋 亜希子 さん

「若い高齢者」が高齢者の必要とする業務をこなす社会

高齢の両親がタクシー会社さんには本当にお世話になっています。ベテラン・ドライバーは道を数多くご存じだし「利用する側のシニアの気持ち」にも寄り添って下さる印象が強い。若いドライバーが、トランクに荷物を積んでくれる姿を見れば、それはそれで「頼もしいなあ」とも感じます。

しかし、やはりベテランのシニア・ドライ

バーの方が安心して任せられると感じます。高齢化社会で「高齢者の中でも若手」の方が「高齢者が必要とする業務をこなす」事が必要となってくるのでしょうか。これからは「ミドル」や「シニア」なんていう呼び名がなくなると良いと考えています。ただの「ドライバー」でいいのではないかも思います。真のエイジ・フリーのために。

高齢者雇用の求人募集は【就サポ】へ!

お申し込み・お問い合わせ

札幌で就活なら
就サポ 札幌市就業
サポートセンター

求人開拓室

☎ 011-708-7865

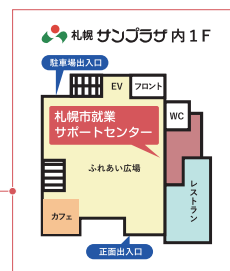
☎ 011-716-6811

《受付時間》平日8:45~17:00(土・日・祝日・年末年始除く)

就サポサービス情報サイト <http://saposen.co.jp/>



札幌市北区北24条西5丁目 札幌サンプラザ1階 地下鉄南北線「北24条駅」1番出口より徒歩3分



さっぽろ市
02-H03-21-2223
R3-2-1411

札幌市就業サポートセンターでは、札幌市が委託する民間職業紹介事業者とハローワークが共同で無料の職業紹介サービスを行っている全国で唯一の官民共同窓口です。職業紹介やカウンセリング、セミナーなどを組み合わせた多様な就労支援サービスを提供しております。